

発注者	株式会社モルテン	カテゴリー				
設計・監理	株式会社フジタ広島支店一級建築士事務所 FUJITA Corporation	A. 環境配慮デザイン	B. 省エネ・省CO2技術	C. 各種制度活用	D. 評価技術/FB	
施工	株式会社フジタ広島支店	E. リニューアル	F. 長寿命化	G. 建物基本性能確保	H. 生産・施工との連携	
		I. 周辺・地域への配慮	J. 生物多様性	K. その他		

モノづくりの開発拠点 クロスイノベーションの誘導



北側外観

概要

広島から世界へモルテンブランドを強く発信する象徴的なオフィスの建設。事業の多様化により広島市内に分散していた開発機能やオフィス機能を1か所に集約し、新たなモノづくりの礎となる開発拠点テクニカルセンターとして発想とプロダクトを生み出す創造の場である。部門、組織の垣根を越えてクロスイノベーションを生み出す研究開発の為に仕掛けを随所に盛り込んだプランニング。モルテンの主要部門である工業部門、スポーツ部門、健康福祉部門の他に外部研究者、デザイナー、プログラマー等様々な専門家が集まってクロスイノベーションを誘導することができる共同工作室を備えたモノづくりの開発拠点となっている。その他各部門の専門的な試験室として工業部門のガレージや振動試験室、スポーツ部門のバスケットコート、福祉健康部門のモーションキャプチャー実験室等を完備。社員に一步步成長して欲しいという願いをこめた大階段。

モルテンの歴史・技術を紹介する展示ギャラリー兼通路や200人を収容できる食堂の一角にはカフェを設けている。外構には焚火台や畑、羊小屋を設え来客や社員間のコミュニケーションを図ると共に従業員のモチベーションを高める場にもなるよう可変性と遊びを取り入れている。



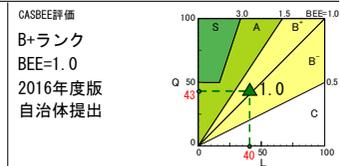
大階段



食堂

建物データ	省エネルギー性能	CASBEE評価
所在地	BPI (モデル建物法)	B+ランク
竣工年	BEI (モデル建物法)	BEE=1.0
敷地面積	LCCO2削減	2016年度版自治体提出
延床面積		
構造		
階数		

所在地	広島県広島市
竣工年	2022年
敷地面積	18,466㎡
延床面積	15,001㎡
構造	柱鉄筋コンクリート造+梁鉄骨造
階数	地上4階



バスケットボールコート



ライブラリー



共同工作室

■快適な執務環境

最上階の執務室は外部に開放的なカーテンウォールにより広島山々や瀬戸内海と繋がり、内部は固定席を設けないフリーアドレス方式、ライブラリーコーナー、バスケットコート、大階段、ラウンジスペースとの繋がりをを持たせることで社員同士がコミュニケーションを図れる構成としている。また本建物構造は柱RC梁S造を採用することで大スパン空間を構成、天井高さを3.0m以上確保、階避難安全検証法で防災上の安全を確保しつつ排煙設備を設けない等の工夫で空間に広がりを感じられる計画を図っている。

その他の取組として室内作業環境向上の為、防音防振に配慮。工業部門の振動試験装置(質量3000Kg)対応として試験機の固有振動数に対応した空気ばねの防振装置架台の設置や防振吊り天井とすることで躯体への固体伝搬音の低減を図っている。また近隣にはドクターヘリポートがあり、ヘリ飛行時の騒音測定からガラスの仕様を選定し遮音性能をT-3等級とすることで安定した執務環境を形成している。

設計担当者

建築：藤原正典、難波一郎、竹澤拓見/構造：東敬洋、末元健一、木曾翔太、伊藤宏亮/設備：藤堂博行、山下剛、北野健人
デザイン監修：SUPPOSE DESIGN OFFICE 谷尻誠、吉田愛、岩竹俊範
ランドスケープデザイン：SOLSO 鈴木俊

主要な採用技術 (CASBEE準拠)

- Q3. 1. 対応性・更新性 (階高6.0m、4.5m、OAフロア100mm)
- LR1. 1. 建物外皮の熱負荷抑制 (ウレタンフォーム吹付 押出成形セメント板の上にアルミ複合樹脂板の採用)
- LR3. 3. 周辺環境への配慮 (LED照明器具の採用)

■環境に配慮した計画

太田川の浸水災害に配慮し1FフロアレベルをGL+1000に設定することで床上1m程度の浸水に抑える計画としている。研究試験機器は2階以上に配置、キュービクルを屋上に設置することで非常時のリスク回避を想定している。省エネルギーへの取組は外壁を押出成形セメント板+断熱材の上にアルミ複合樹脂板 (アルポリックパネル)、ガラス面は全てLow-Eペアガラスを採用することで高断熱性能とし熱負荷を軽減している。



外壁：アルポリックパネル